



なぜダービーは特別なのか

コラム — 赤見 千尋

「ダービー」——それは競馬に携わるものにとって最高の舞台であり、ダービーを勝つことは最高の栄誉である。この事実をたいていの人々が知っていると思うが、ではなぜダービーだけが特別なのだろうか?世界中に存在するダービーと名の付くレースは、多少の条件は違えどそのほとんどが3歳馬の頂上決戦と位置づけられている。ダービーが特別な理由の一つとして、「3歳時の一度しか挑戦できない」ということが挙げられるが、3歳馬限定戦は他にもたくさん存在する。その中でダービーだけが特別なのは、もう一つ別の理由があるからだ。

もともとの起源は、1780年のイギリス。創始者の一人であるダービー伯爵の名前にちなんで名づけられたこのレースは、3歳馬限定戦であり、繁殖馬選定のために行われ、繁殖能力のないセン馬は出走できないというルールが作られた。そう、ダービーとは繁殖馬選定が最大の目的だったのだ。サラブレッドはレースで勝つことのみを目的に交配が行われ、勝てない血は淘汰されてきた。その中で、すべてのサラブレッドは血統を遡ると17世紀に存在した、ダーレーアラビアン、ゴドルフィンアラビアン、パイアリータークという3頭のうちのどの馬かに必ずたどり着く。世界中に存在するサラブレッドすべてがである。逆に言えば、この3頭の血が入っていない馬はどんなに速くてもサラブレッドではないし、血統を証明することができない馬もサラブレッドとは呼べない。約300年も血統を遡れる生き物が、他にどれだ

けいるだろうか?サラブレッドとは、それほど特殊な存在なのだ。そのサラブレッドの交配や淘汰を行う基準となっていたのがダービーなのである。今、わたしたちが目にするサラブレッド1頭1頭の中に、遠い昔のダービー馬たちのDNAが宿っているのだ。もちろん、ダービー以外で実績を作った馬たちも交配されてきたが、なぜダービーだけが神聖化されたかといえは、先に述べたもう一つの理由「3歳時の一度しか挑戦できない」からだろう。始まりが繁殖馬選定レースであること、そして勝つチャンスが非常に少ないことが相まって、唯一無二のレースになっていったのではないかと考えている。

現在行われている各地のダービーは、当初の意味合いとは違ったものも多い。しかし、サラブレッドと共に生きる人間にとって、ダービーが神聖なレースであることには変わりがないのである。

そして今年もダービーの季節がやって来た。地方競馬では、2007年から全国各地のダービーを集中的に行うダービーウィークを創設。毎日がダービーという一週間は、ファンはもちろん、関係者にとっても特別な時間だ。交配から考え抜いて命を誕生させた牧場関係者。鞍付けやハミ付けを訓練し、少しずつ競走馬になる調教をして来た育成関係者。日々の鍛練を繰り返し、デビューからダービーへと道を繋げた厩舎関係者。そして、馬たちと共にレースに挑む騎手。ダービーに出走する1頭1頭にドラマがあり、背負っている想いがある。競馬場で取材をしていると、レース直後の馬たちや関係者の表情を目にすることができ、ダービーほど勝敗のコントラストが大きいレースはない。それだけ勝った時の喜びは大きく、負けた時の悔しさもまた大きいのだ。

ダービーとは、競馬に携わるものにとって最高の舞台であり、ダービーを勝つことは最高の栄誉である。だからダービーは特別に面白いのだ。

赤見千尋(あかみ・ちひろ)
タレント。群馬県出身。平成10年10月高崎競馬場で騎手デビュー。以来、高崎競馬が廃止される平成17年1月まで騎乗を続け通算2033戦91勝。現在は競馬リポーター、ライターとして活動中。趣味は歌舞伎鑑賞、筋トレ。
【掲載】競馬ブック「競馬Navi Talk」リレーコラム連載中【TV】千葉テレビ「東国原英夫のそのまんまでは通しません」アシスタントMC、KBS京都「競馬展望プラス」MC

